

編 集 後 記

今日、我が国にとって世界の国々との距離が著しく近づいている。例えば、海外で起こるイベントや事件のニュースは瞬時に伝わってくる。一昔前には、閉鎖的な情報システムや限られた情報技術などの理由から、そういうことは考えられなかった。あるいは別な例を引けば、ビジネスにおいては外国企業の経営が破綻すれば日本資本がそれを買収し、逆に日本企業の経営が破綻すれば、外資がその企業を買収する機会が増えている。ビジネス環境は最早必然的に国の内外に及ぶとも言えよう。したがって、ビジネス・マネジメントを研究するうえで、変化に対応する力が求められる。

国際経営研究所の機関誌として『国際経営フォーラム』を豊かにするダイナミズムは、言うまでもなく、研究所員を中心とした研究の成果や調査を纏めあげることだが、本号もそうした活動の息吹が如実に伝わる形で上梓されたことは編集者として大きな喜びである。執筆者各位にお礼を申し上げたい。

本誌No.15は、その特集である「地域の時代とビジネス革新」をはじめとして、その内容は多岐にわたる。地域に根ざしたビジネスが、延いては世界へ向け躍進することになる場合が多々ある。ある意味では、地域時代がグローバル時代を誘う。それは例えば、周知のごとく我が国の「町工場」のなかに、世界ナンバーワンといえるものが少なくないからである。にもかかわらず現在、世界的な流れになっている経済構造の変革のなかで、とりわけ世界的に注目されていた日本的経営は岐路に立っていると言えるかもしれない。今日の低成長時代において、地域に着目し地域と共に生きるビジネスの創造は、言ってみれば原点に立ち返り、新たな豊かさを模索するうえで大変興味深い。

そのほか、本誌には経営環境、会計、ロジスティクス、情報、企業戦略、英語教育等に関する示唆に富み、時宜に合った論考や市民講座等の意義深いレポートが盛り込まれている。市民大学は地域との連携プレーの産物であり、こうした講座が引き続き開かれることが望まれる。教育ノートは、本学経営学部の発展に直接結びつくものとして重要である。それゆえ、こうした成果は研究所のみならず、地域に根ざした経営学部の発展にも繋がるため、今後とも本誌を研究発表の場として大いに活かしていただければ幸いである。

ここに掲載された玉稿のテーマから窺えるように、研究所員の専門分野や研究分野は多種多様であるかもしれないが、逆に言えば、そうだからこそ本誌に厚みを増すと言うことができる。本号の研究成果を講義やフォーラム等さまざまな場で活用していただけることを期待するとともに、次号においても多くの論文を寄せていただくことをお願い申し上げたい。

(金谷良夫)

執筆者（掲載順）

斉藤毅憲……横浜市立大学商学部教授
小泉光一郎…相模石油株式会社社長
小沢裕司……前神奈川県平塚商工労働センター商工課長
海老澤栄一…神奈川県大学経営学部教授
伊澤繁雄……平塚商工会議所専務理事
後藤 伸……神奈川県大学経営学部教授
藤田昌久……神奈川県大学経営学部教授
ティオフィラス・アサモア…神奈川県大学経営学部教授
高取康之……神奈川県大学経営学部特任講師
丹野 勲……神奈川県大学経営学部教授
原田仁文……神奈川県大学大学院経営学研究科後期課程修了
三村真人……神奈川県大学経営学部教授
李 貞和……神奈川県大学大学院経営学研究科博士後期課程
金 宗烈……神奈川県国際経営研究所客員研究員
穂積和子……神奈川県大学経営学部教授
石積 勝……神奈川県大学経営学部教授
川嶋寛武……神奈川県大学大学院経営学研究科博士前期課程
照屋行雄……神奈川県大学経営学部教授

『国際経営フォーラム』編集委員会

委員長 金谷良夫 委員 石積 勝 後藤 伸
田中則仁 照屋行雄

『国際経営フォーラム』No. 15 ISSN 0915-8235
発行日 2004年6月1日（年一回発行）
編集人 『国際経営フォーラム』編集委員会
発行人 照屋行雄（国際経営研究所所長）
発行所 神奈川県大学 国際経営研究所
〒259-1293 神奈川県平塚市土屋2946
電 話 （0463）59-4111（代表）
F A X （0463）58-9683
e-mail:kokusaiken@adm.kanagawa-u.ac.jp
印刷所 株式会社ホクト印刷

◆本誌掲載記事・論文の一部または全部の転載は、事前に筆者または国際経営研究所から直接紙面による許可を得た場合に限られます。